



2024年度 決算説明会

東京証券取引所プライム（証券コード：7294）

代表取締役社長 平中 勉

目次

- I . 2024年度 業績
- II . 2025年度 業績予想
- III . 株主還元
- IV . トピックス
- V . YSP2026 基本方針の見直し
- VI . 2025年度 活動方針

I.2024年度 業績

2024年度連結決算概要説明

前期比	P6 詳細
◆ 売上高	円安に伴う為替換算影響があったものの、生産台数の減少などにより減収
◆ 営業利益	日本、米国、アジア生産台数減、米国の一過性品質費用の発生、YSMC本社工場の立上げ費用などにより減益
◆ 経常利益	外国為替相場の変動（主にペソ建資産の評価損）により減益
◆ 当期純利益	YSP2026で掲げた構造改革施策の前倒し実施で連結子会社の減損損失計上などにより減益

前回公表値(25年 1月17日) 差異	P7 詳細
◆ 売上高	減産リスクの未発生による売上増やインフレコストの追加回収等により増加
◆ 営業利益	日本セグメントでのランサム被害復旧後の合理化挽回(FY25前倒し)及び経費削減等により改善
◆ 当期純利益	米州・アジアセグメントにおける減損損失は実績91億円に減少（見込額約140億円）

2024年度連結決算概要（前期比）

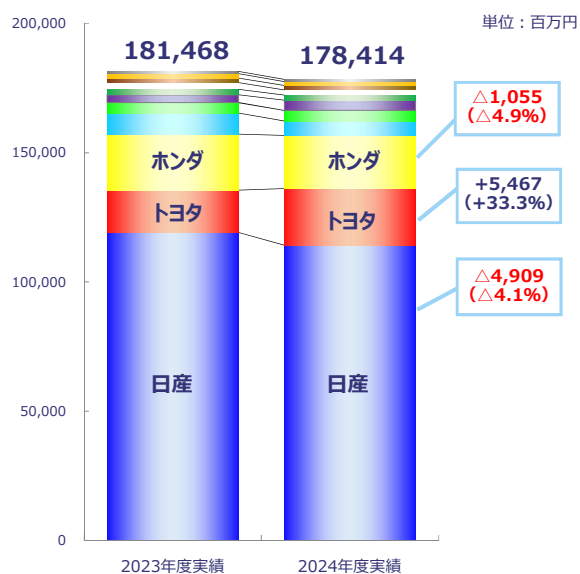
単位：百万円	2023年度	2024年度 直近予想※2	2024年度	前期比	前回公表値比 増減額（率）
売上高	181,468	177,000	178,414	△3,054（△1.7%）	+1,414(+0.8%)
営業利益	4,459	△1,200	298	△4,161（△93.3%）	+1,498(-- %)
経常利益	4,517	△3,800	△2,077	△6,594（ -- %）	+1,723(-- %)
当期純利益※1	△3,926	△17,000	△13,448	△9,522（ -- %）	+3,552(-- %)

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 2025年1月17日時点予想値

	2023年度 A	2024年度 B	増減額 B-A	増減率
一株当たり当期純利益	△162円07銭	△551円45銭	△389円38銭	--
連結取り込みレート	140円66銭 / \$	151円68銭 / \$	+11円02銭 / \$	+7.8%

連結得意先別売上高（23年実績 対 24年実績）



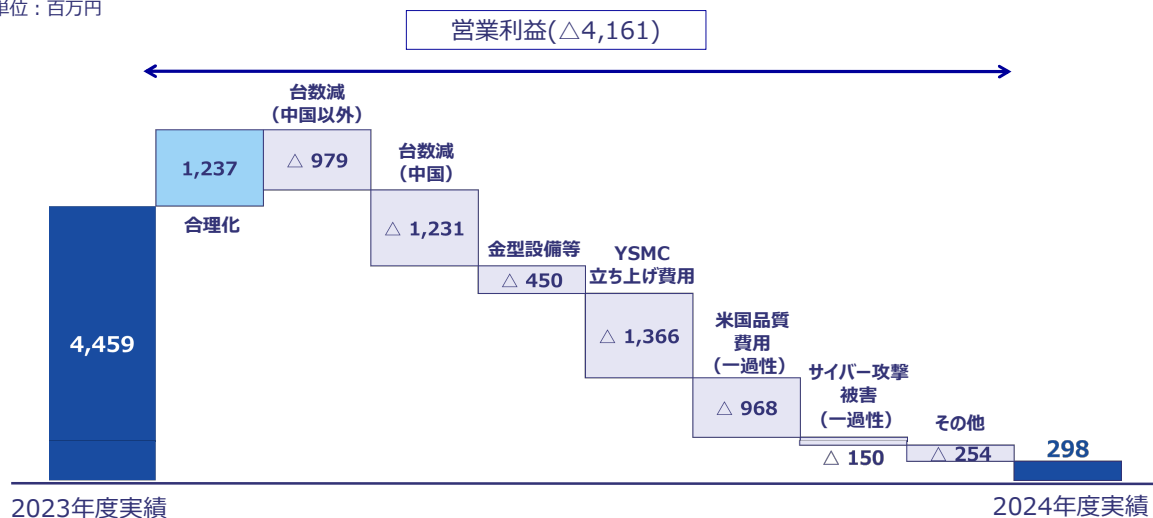
得意先	2023年度	(%)	2024年度	(%)
日産 Gr ※	119,142	65.7%	114,233	64.0%
トヨタ Gr	16,408	9.0%	21,875	12.3%
ホンダ Gr	21,628	11.9%	20,573	11.5%
いすゞ Gr	8,181	4.5%	5,597	3.1%
マツダ	4,024	2.2%	4,106	2.3%
VW	3,040	1.7%	3,925	2.2%
Mercedes Benz	2,088	1.2%	1,973	1.1%
クボタ	2,597	1.4%	1,936	1.1%
スバル	1,722	0.9%	1,830	1.0%
スズキ	1,763	1.0%	1,480	0.8%
その他	875	0.5%	886	0.6%
合計	181,468	100.0%	178,414	100.0%

※ ルノー・三菱向け売上含む

トヨタ向けが大きく伸長

連結営業利益の増減要因分析（23年実績 対 24年実績）

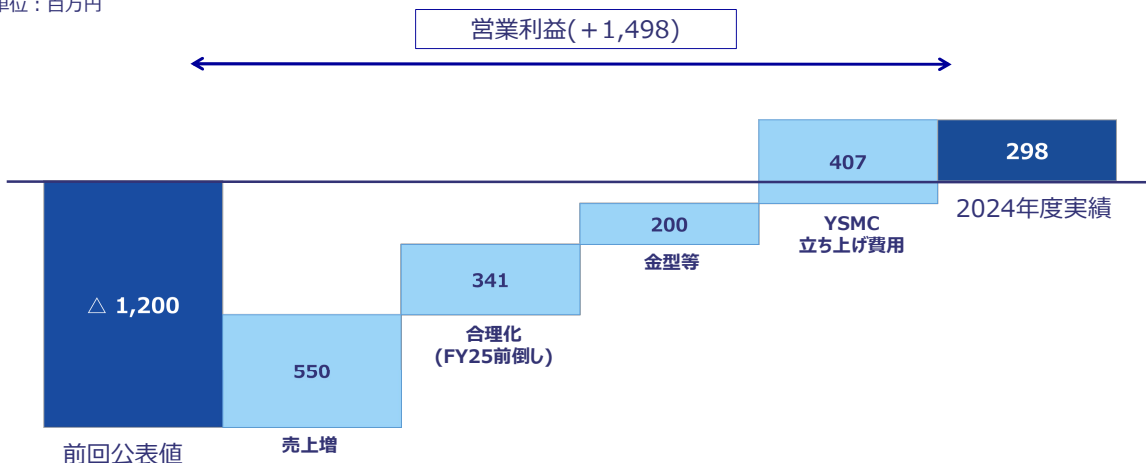
単位：百万円



日本・米国・中国・タイ等における生産台数の大幅な落ち込みと一過性費用等により減益

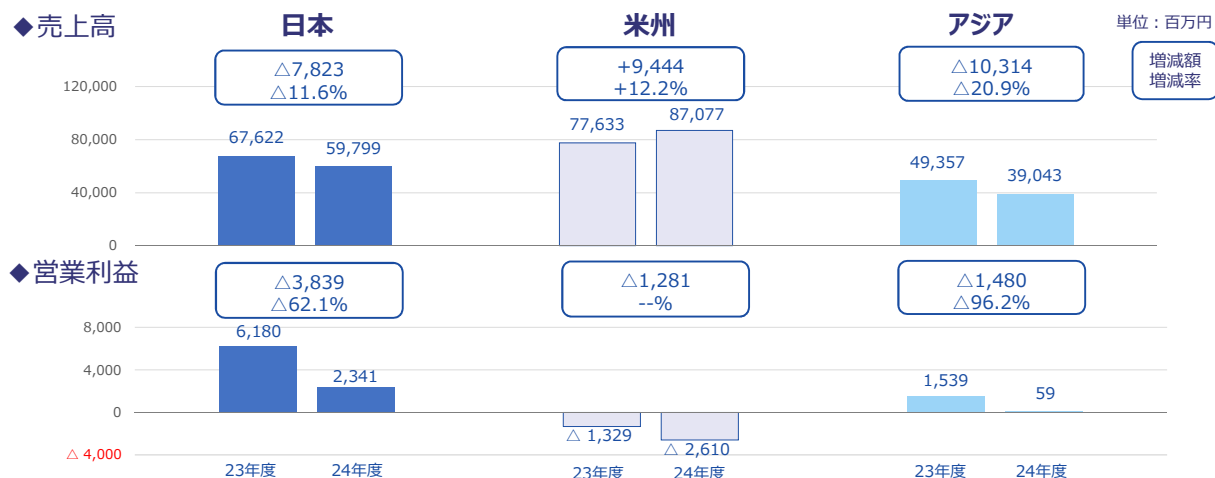
連結営業利益の増減要因分析（前回公表値 対 24年実績）

単位：百万円



減産の未発生やインフレコストの追加回収及びランサム被害復旧後の合理化挽回等により改善

地域別売上高・営業利益 連結調整前（23年実績 対 24年実績）



- ◆ 日本 生産台数減少に加え、金型・設備減少、YSMC本社工場の立上げ費用などにより減収・減益
- ◆ 米州 新車効果及び為替影響などにより増収、米国における一過性品質費用の発生などにより減益
- ◆ アジア 中国・タイの生産台数減少などにより減収、減益

財務状況 2025年3月期

(単位：百万円)		2024年3月末 A	2025年3月末 B	前期比(B-A)	
自己資本		66,070	52,009	△14,061	△21.3%
自己資本比率		46.4%	38.1%	--	--
有利子負債	DEレシオ	0.51	0.82	9,374	28.1%
NET有利子負債	NET DEレシオ	0.17	0.29	3,731	33.6%
総資産		142,257	136,601	△5,656	△4.0%
(単位：百万円)		2024年3月期 通期累計 A	2025年3月期 通期累計 B	前期比(B-A)	
営業キャッシュフロー		12,531	4,742	△7,789	△62.2%
投資キャッシュフロー		△11,851	△11,814	37	--
財務キャッシュフロー		△1,741	6,758	8,499	--

適切な資金調達計画でDEレシオは健全な状態を維持

(ご参考) 連結貸借対照表の概要 2025年3月期

単位：百万円		2024年3月末 A	2025年3月末 B	増減 B-A
流動資産		75,373	81,159	5,786
固定資産		66,884	55,441	△11,443
資産合計		142,257	136,601	△5,656
流動負債		49,815	51,292	1,477
固定負債		16,949	24,105	7,156
負債合計		66,764	75,397	8,633
株主資本		58,394	44,036	△14,358
その他の包括利益累計額		7,676	7,973	297
非支配株主持分他		9,421	9,193	△228
純資産合計		75,493	61,204	△14,289
負債・純資産合計		142,257	136,601	△5,656

現預金	5,642
受取手形及び売掛金	△1,310
棚卸資産	632
その他の流動資産	484
有形固定資産	△9,135
投資その他の資産	△2,242
支払手形及び買掛金	195
電子記録債務	△1,225
短期借入金	△1,144
1年内返済予定の 長期借入金	3,439
その他	203
長期借入金	3,180
その他	3,759
当期純利益	△13,448
配当支払	△778
その他有価証券評価 差額金	△516
為替換算調整勘定	1,136
退職給付に係る調整累計額	△322

Ⅱ.2025年度 業績予想

2025年度連結業績予想の概要

事業環境

- 【1】主要顧客の再建計画の進捗が不透明
- 【2】米国関税施策が間接影響を含め世界の自動車需要へ及ぼす影響を懸念するも不透明

環境変化が25年度に及ぼす影響の予想値織込み状況

【1】主要顧客の再建計画

- 1.Global生産台数 ・前年度比△4%の台数減少
- 2.追加の改革公表 ・組立7工場減、人員追加削減の影響

織込済

未織込

【2】米国関税

- 1.直接影響 ・自己調達部材で米国Gr会社の輸入価格上昇
(数億円の影響発生するも顧客から回収で相殺する前提)
- 2.間接影響 ・顧客の国内外から米国内工場への生産移転等による影響
・米中対立による世界自動車需要の減速懸念

織込済

未織込

未織込

2025年度連結業績予想の概要

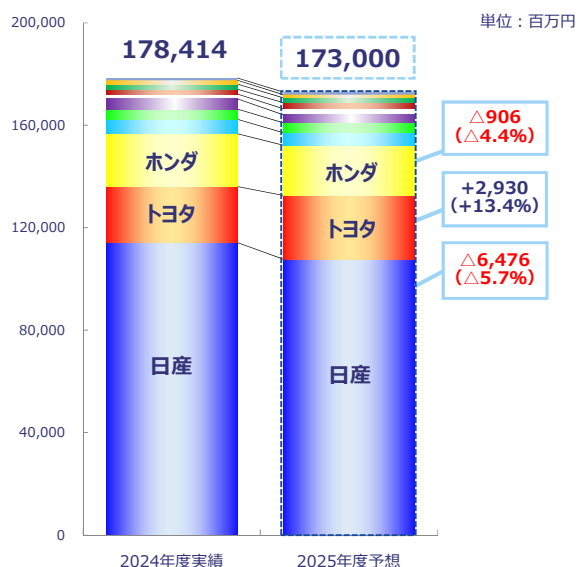
単位：百万円	2024年度実績 A	売上高 比率	2025年度 予想 B	売上高 比率	増減額 B-A	増減率
売上高	178,414	100.0%	173,000	100.0%	△5,414	△3.0%
営業利益	298	0.2%	2,600	1.5%	2,302	8.7倍
経常利益	△2,077	--	1,800	1.0%	3,877	--
当期純利益※1	△13,448	--	800	0.5%	14,248	--

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

	2024年度実績 A	2025年度予想 B	増減額 B-A	増減率
一株当たり当期純利益	△551円45銭	32円98銭	+584円43銭	---
連結取り込みレート	151円68銭 / \$	143円00銭 / \$	△8円68銭 / \$	△5.7%

- 収益力向上への取組みの明確化のためYSP2026 基本方針の見直しを実施
- 新車需要の伸びが期待できない環境下にあっても営業利益率1.5%以上を目指す

連結得意先別売上高（24年実績 対 25年予想）



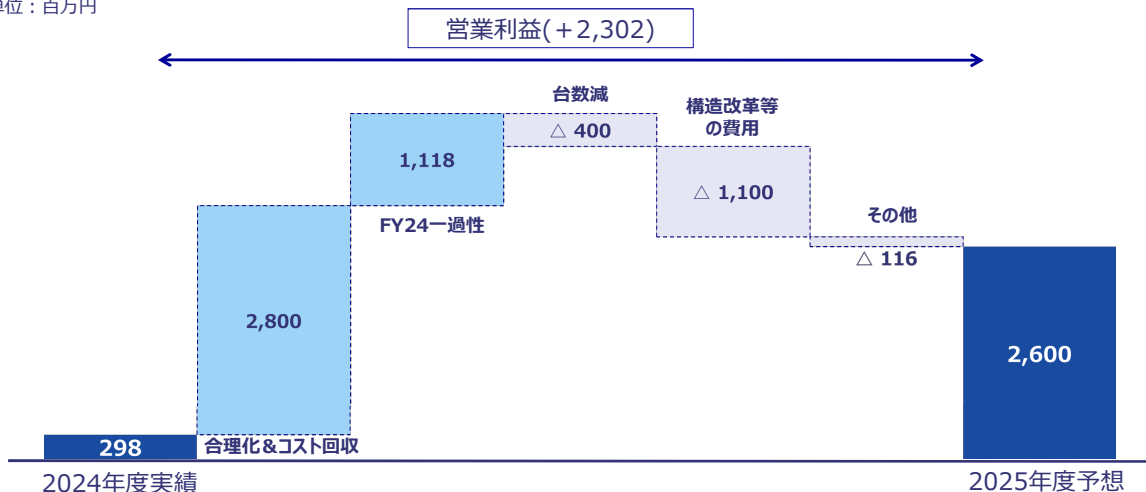
得意先	2024年度	(%)	2025年度	(%)
日産 Gr ※	114,233	64.0%	107,757	62.3%
トヨタ Gr	21,875	12.3%	24,805	14.3%
ホンダ Gr	20,573	11.5%	19,667	11.4%
いすゞ	5,597	3.1%	4,900	2.8%
マツダ	4,106	2.3%	3,822	2.2%
VW	3,925	2.2%	3,172	1.8%
クボタ	1,936	1.1%	2,388	1.4%
SUBARU	1,830	1.0%	2,370	1.4%
Mercedes Benz	1,973	1.1%	1,850	1.1%
スズキ	1,480	0.8%	1,231	0.7%
その他	886	0.6%	1,038	0.6%
合計	178,414	100.0%	173,000	100.0%

※ ルノー・三菱向け売上含む

トヨタ向けがさらに伸長

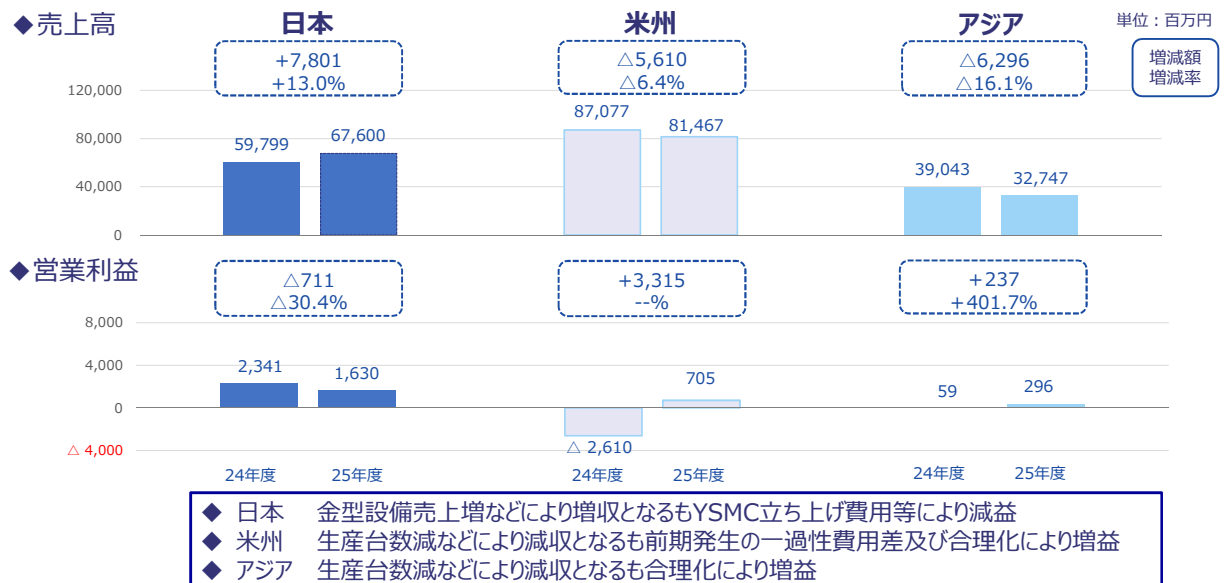
連結営業利益の増減要因分析（24年実績 対 25年予想）

単位：百万円

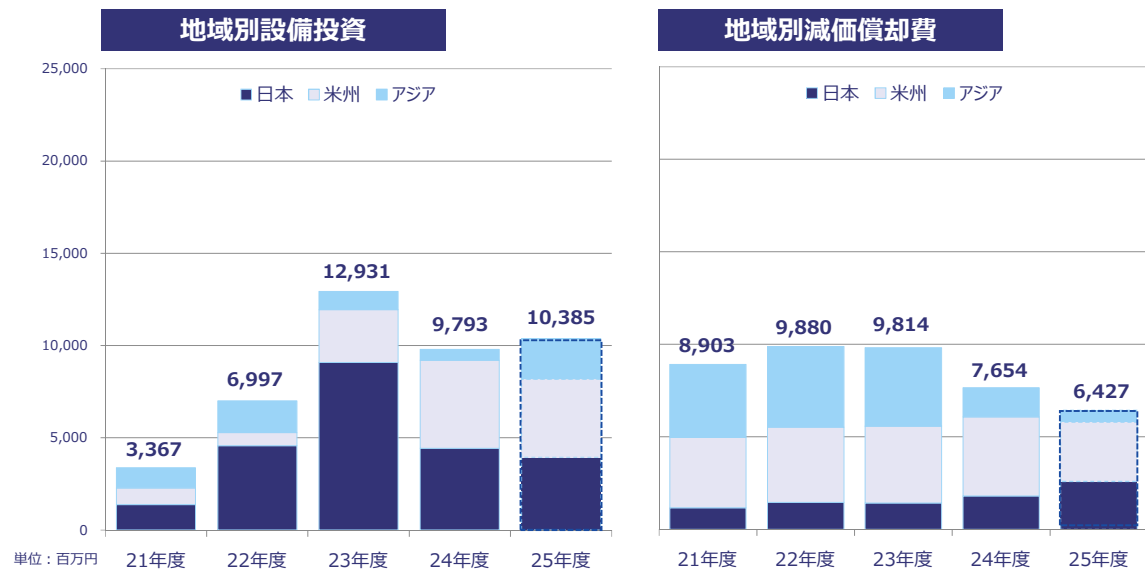


「V字回復」によるYSP2026最終年度収益達成に向け確実な収益体質への回帰を目指す

地域別売上高・営業利益 連結調整前（24年実績 対 25年予想）



設備投資と減価償却費



Ⅲ.株主還元

株主還元

株主支援に報いる還元政策

- 配当方針

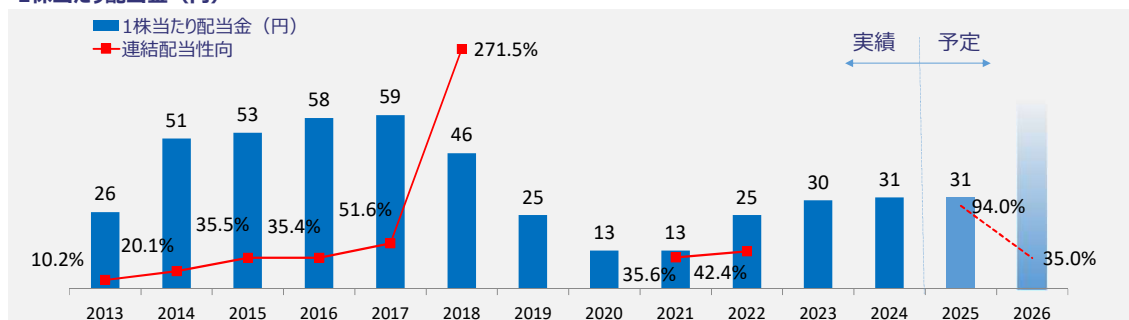
1株当たり配当31円を下限とし、配当性向35%以上を目指す

- 自己株式の取得

他の投資対象、手元現預金水準、業績の動向等を総合的に勘案し、適切な局面で機動的に実施。

2025年2月17日～4月30日の間に自己株式250千株を市場より購入完了

1株当たり配当金（円）



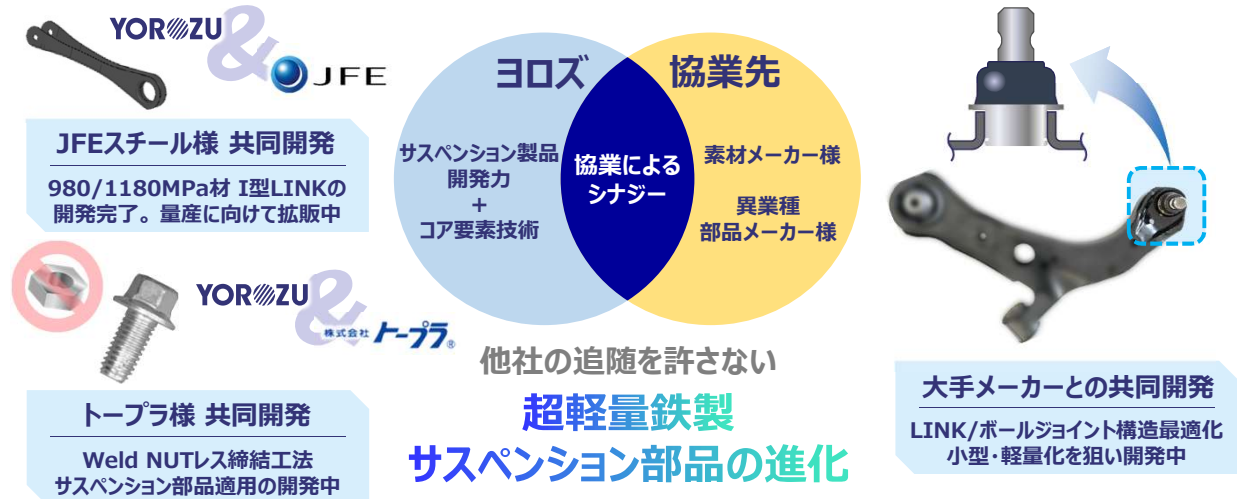
IV.トピックス

2024年度 トピックス

方針	方策	進捗トピックス	説明
事業基盤の強化	①新技術・新工法の創出と拡販	・新たな成形技術で、差厚板材による軽量化を実現 ・パートナーとの協業によるシナジーで、高付加価値製品の開発をブースト	○
	②収益体質の強化	・拠点収益のモニタリング強化で、拠点負荷バランスの最適化検討を実施 (米州・アジア)固定資産の減損兆候ありと認識し、構造改革施策を前倒実施 ・重大品質不良“0”に向けた、溶接品質自動検出システムの構築 ・キャパシティーマネジメントとして、非量産部品の効率的生産システム開発	○ ○
	③E(環境対応を武器にしたものづくり)	・YSMC新工場 モデル工場実現に向け、本格稼働の最終仕上げに ・ホンダ、マツダより、CNに向けた取り組みに対し、環境関連賞を受賞	○ ○
経営基盤の強化	④S(社会・人:エンゲージメントの向上)	・健康経営優良法人(大規模法人部門)に5年連続で認定	
	⑤G(ガバナンスの向上)	・SR面談等で得た機関投資家の質問や関心事を、取締役会でFBを実施	
	⑥財務戦略	・キャッシュフローの最適化や資金繰りの検討を実施 (YSP2026方針に則り)配当の実施、自己株式取得の決定 (25/2)	

トピックス：① 新技術・新工法の創出と拡販

パートナーとの協業によるシナジーで、高付加価値製品の開発をブースト

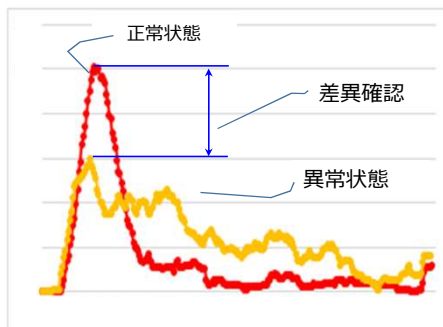


トピックス：② 収益体質の強化

重大品質不良“0”に向けた、溶接品質自動検出システムの構築



溶接の位置ずれによる接合不良は、製品の耐久性を低下させ、人命を脅かす恐れがある



【検知メカニズム概要】

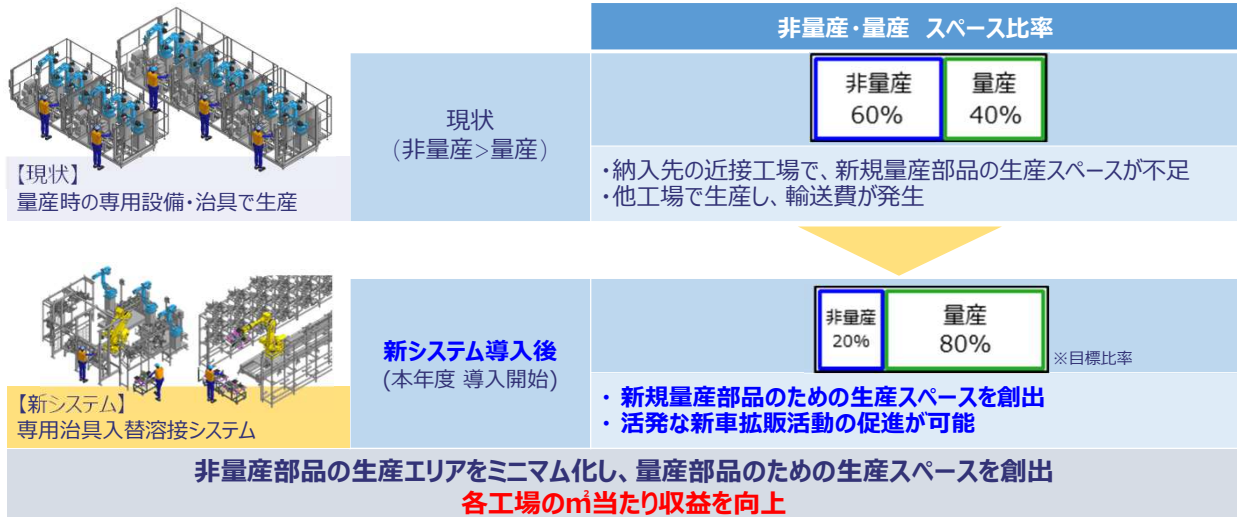
<本システムの特徴>

- ・溶接位置ずれを検知し設備を停止。不適合品を自動選別し隔離。
- ・溶接施工と同時に、正常状態との差異を確認し、異常を検出する業界初のシステムで、複数の大手溶接機メーカーと共同開発中。

品質の高さで「選ばれる会社」に
品質対策費用の発生を防止、収益体質を強化

トピックス : ② 収益体質の強化

キャパシティーマネジメントとして、**非量産部品の効率的な生産システム開発**に着手



トピックス : ③ E(環境対応を武器にしたものづくり)

YSMC新工場 モデル工場実現に向け、本格稼働の最終仕上げステージへ

11月21日
『開所式』開催

カーボンニュートラル (CN) を達成した最新工場
お客様から『選ばれる工場』を目指し、本年 秋から本格生産を開始します



組立設備を設置中

愛知工場から 25年10月移管完了



YSMC 全景



世界最高レベルの塗装設備

高効率・高防錆をオール電化で

設備規模を活かした
大型部品(BEV電池ケース)の
塗装を新規受注



地域社会との連携

「脱炭素化」・「防災対策 強靱化」の『取組み協定』を締結
(輪之内町+303+日産自動車)

トピックス : ③ E(環境対応を武器にしたものづくり) -2024年度 OEM表彰(品質関連以外)

	日産	ホンダ	マツダ
新技術	●		
環境		● PR開示文書 : 日本語 、 英語	● PR開示文書 : 日本語 、 英語
受賞名	2025 Nissan Global Innovation Award	優良感謝賞 サステナビリティ 部門 	カーボン ニュートラル 優秀賞 
評価 ポイント	・新型パトロール車 車体フレーム部品への 超ハイテン980Mpa熱延材採用	・2040年のCNを目標に取組み ・YSMCでの、生産工程CO2 排出量ゼロ化取組み	・太陽光発電導入(グローバル) ・グリーン電力導入(国内工場) ・軽量化(材料置換)による CO2排出量削減

環境関連での受賞は、OEMの評価メジャーに「環境対応」が定着しつつあることに加え、ヨロズの先行取り組み等が評価されている表れ

V.YSP2026 基本方針の見直し

中期経営計画「YSP2026」の見直し（追補）

業績目標

売上高 2,100億円

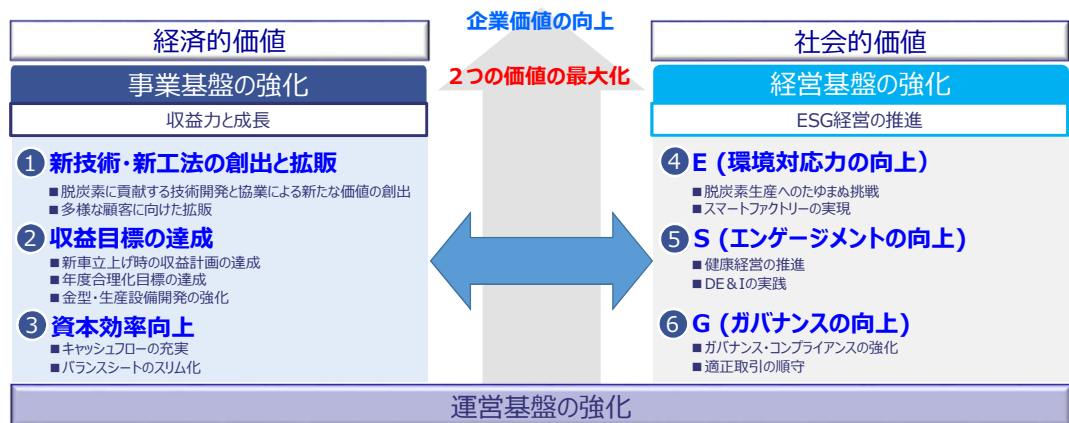
営業利益率 4.5%

ROE 8.0%

経営方針

社会の一員としての責務を果たし、成長に向けた攻めの施策で電動化時代を支える存在となり、全てのステークホルダーから「**選ばれる会社**」になる

基本方針



YSP2026見直し内容

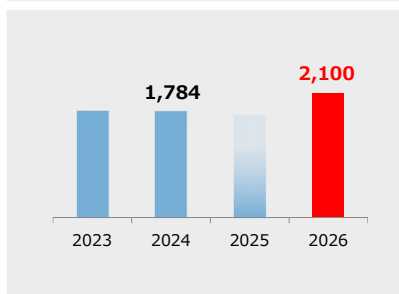
25年度見直し(下線部見直し)		追補内容	YSP2026策定時	
事業基盤 の 強化	収益力と成長	財務戦略を組入れ “収益力と成長”の 強化を明確化	E (環境)経営と 「成長と収益力」の融合	①新技術・新工法の創出と拡販 ■脱炭素に貢献する技術開発と協業による新たな価値の創出 ■多様な顧客に向けた拡販
	②収益目標の達成 ■新車立上げ時の収益計画の達成 ■年度合理化目標の達成 ■金型・生産設備開発の強化			②収益体質の強化 ■新車用製品立上げ時の収益最大化 ■顧客の地域別生産動向を見据えた拠点改革の検討
	③資本効率向上 ■キャッシュフローの充実 ■バランスシートのスリム化			③E (環境)対応を武器にしたものづくり ■脱炭素生産へのたゆまぬ挑戦 ■スマートファクトリーの実現
経営基盤 の 強化	ESG経営の推進	事業を行う 資格要件としての “ESG経営深化” の目標を明確化	全体最適化	④S (社会・人：エンゲージメントの向上) ■健康経営の推進 ■DE & Iの実践
	⑤S (エンゲージメントの向上) ■健康経営の推進 ■DE & Iの実践			⑤G (ガバナンスの向上) ■ガバナンス・コンプライアンスの強化 ■適正取引の順守
	⑥G (ガバナンスの向上) ■ガバナンス・コンプライアンスの強化 ■適正取引の順守			⑥財務戦略 ■株主還元 ■政策保有株
運営基盤の強化		事業基盤、経営基盤 を支える土台を設定		

VI.2025年度 活動方針

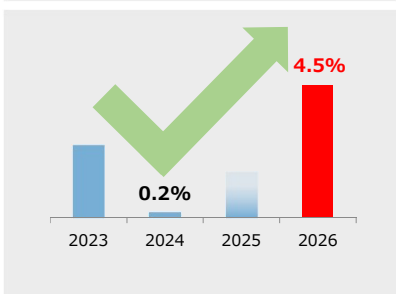
2025年度 業績目標：V字回復

「V字回復」によるYSP2026最終年度の目標必達に向け、
25年度は確実に収益が出る体質への回帰を目指す

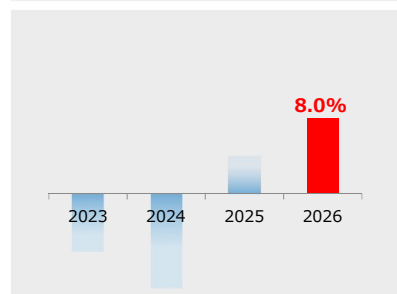
売上高（億円）



営業利益率（%）

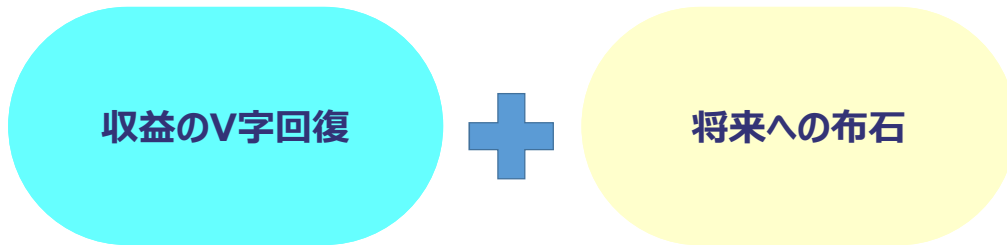


ROE（%）



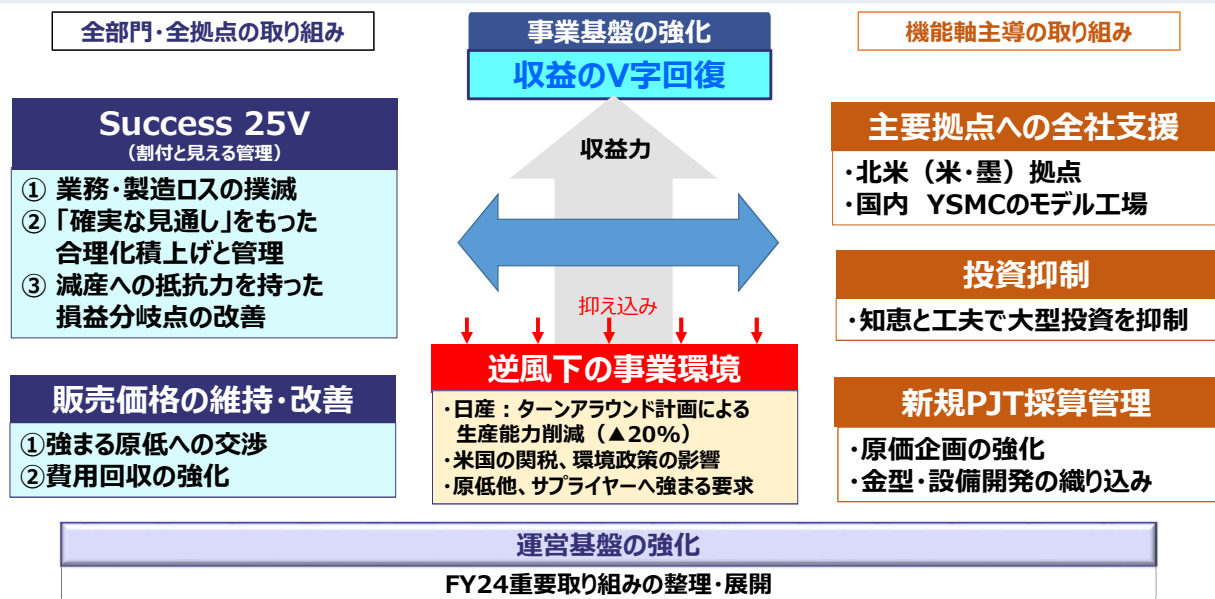
■ 対外公表値

YSP2026事業基盤の強化

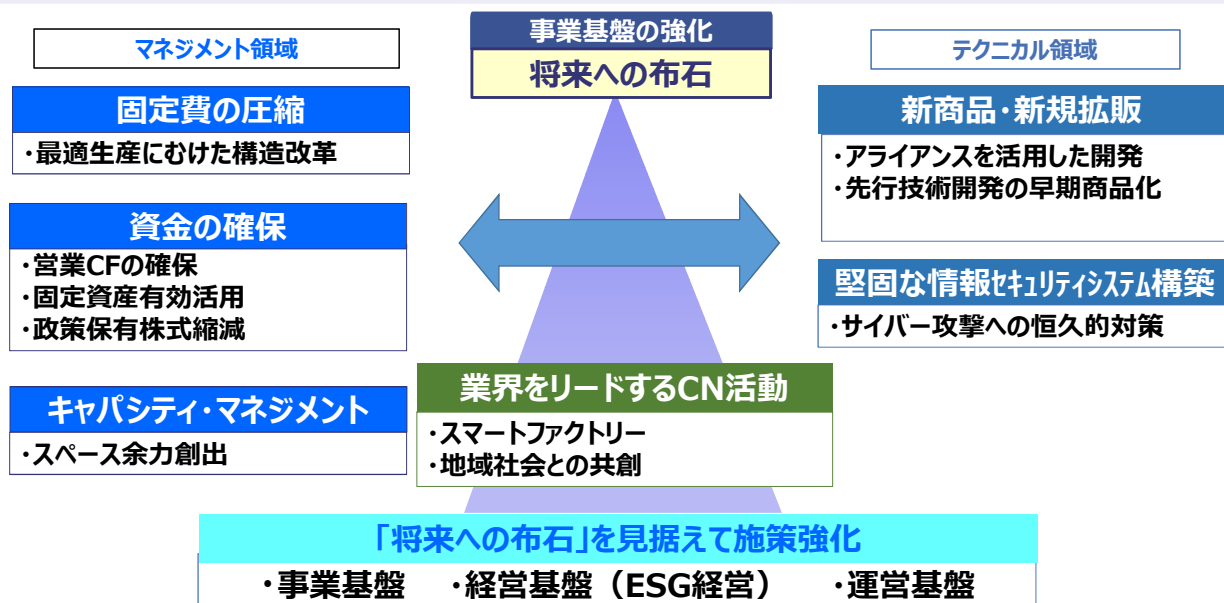


- ・「収益」に拘り、V字回復を達成する
- ・成長に向けた、「将来への布石」の検討を加速する

2025年度 活動方針：収益のV字回復



2025年度 活動方針：将来への布石



～全てのステークホルダーから「選ばれる会社」へ～

免責事項と著作権

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さいますようお願い致します。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

●お問合せ

責任者： (株)YOROZU 取締役専務執行役員

平野 紀夫

担当： (株)YOROZU 経理部 主担

劉 雪輝

T E L 045-543-6802

YOROZU